

安平町立遠浅小学校

公開研究会 中止

本校では、「相手を思いやり、他者とともにによりよく生きる子どもの育成」を主題に設定し、道徳科の時間における指導の改善と充実を通して児童の道徳性を養うことを目指し、平成28年度より3か年計画で校内研修を進めてきました。

3年次の今年度は、児童の道徳性をより養っていきけるよう、「考え、議論する授業づくり」と「ねらいに基づく適正な評価の在り方」について、理論、実践両面での研修を深めていきたいと考えています。

相手を思いやり、
他者とともにによりよく生きる子どもの育成
～道徳の時間における指導の改善と充実を通して～



3・4年道徳科「友だちっていいな」読み聞かせを聞いて友達との関わり方について考えているところ

2年道徳科「大きいりんごと小さいりんご」思いやりのある言葉かけを考えているところ

白老町立白老小学校

公開研究会 11月9日(金)

本校は、「進んで学び、学んだことを生かす子供の育成」を研究主題に、算数科・自立活動の研究を推進しています。今年度は3か年計画の最終年度にあたり、培ってきた授業の在り方を再確認し、更なる授業改善に向けた校内研究に取り組んでいます。

「白老町スタンダード」をもとに、問題解決的な探究型の学習過程を意識し、児童が課題に向かって見通しをもって考えたり、適用問題に集中して取り組んだりできるようになってきました。この秋には公開研究会を開催し、参加された先生方より沢山のご意見、ご感想を賜り、更に研究を深めてまいりたいと考えています。

進んで学び、学んだことを生かす
子供の育成
～算数科・自立活動の授業づくりを通して～



1年生算数科 ノートを見てペア交流を行うところ

3年生算数科 見通しをもつて自力解決を行うところ

厚真町立厚南中学校

公開研究会 次年度開催予定

本校は、各教科を研究領域とし、昨年度からの3か年計画で、研究を進めています。昨年度は、「問題解決的な学習を取り入れた授業の展開」に視点を当て指導過程を検討し、授業交流を行い、各教科における、課題提示から振り返りまでの流れを確立することができました。今年度は、「対話的な学びの工夫」に視点を当てて実践を重ね、授業改善に努めています。単元全体を見直し、効果的に「対話的な学び」を位置付けることを通して、研究主題に迫る取組をしています。

考えを伝え、主体的に学ぶ生徒の育成
～対話的な学びの場を工夫した問題解決的な学習～



1年英語科「Program3」スピーキング活動をしているところ

2年国語科「走れメロス」意見交流をしているところ

所報 いぶり

胆振教育研究所
第3号

平成30年10月10日発行

研究委託校・実践校の紹介

研究委託校・実践校の紹介
夏季研修講座

厚真町立厚真中学校

公開研究会 10月26日(金)

●規模を縮小して実施

豊かな心を持ち、
よりよい生き方を求める生徒の育成
～深く考え、議論する道徳授業を通して～

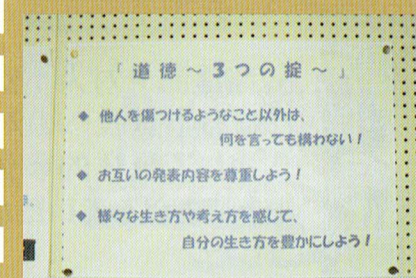
本校は、「豊かな心を持ち、よりよい生き方を求める生徒の育成～深く考え、議論する道徳授業を通して～」を研究主題として、3か年計画で研修を進めています。

2年目となる今年度は、①使用する教材の選定や提示方法、②発問、③話し合い形態を工夫し、「深く考え、議論する」場面の充実に重点を置いた研究に取り組んでいます。

また、「道徳～3つの掟～」をつくり、全学年共通して教室掲示することで、安心して本音で語り合える雰囲気づくりに努めています。



3年道徳 グループ討議後の役割演技をしているところ



教室掲示した「道徳～3つの掟～」

むかわ町立穂別中学校

公開研究会 中止

他者との関わり合いを通して、
学力を育てる授業への創造
～基本の授業モデルをもとにした授業研究を通して～

本校では、研究主題を「他者との関わり合いを通して、学力を育てる授業への創造」とし、今年度が2か年計画の2年次となります。本校としての「学び合い」、「関わり合い」とは何かを考え、問題解決的な学習に沿ったモデルを基本として授業実践を重ねています。

基本的には、既習事項を生かして思考を深める「課題設定」を行います。一人一人の生徒が関わり合いの中で思考し、「わかった」、「できた」と解決したことを少しでも表現させる授業の在り方について、研究を進めています。



1年国語科 スピーチのための準備をしているところ



3年音楽科 ポレロを聴いて感じたことをグループで話し合い、発表しているところ

平成30年度 胆振教育研究所 夏季研修講座

7月27日、のぼりべつ文化交流館 カント・レラで、公立学校スクールカウンセラー 臨床心理士 尾野 裕子氏を講師に招き、「不登校へのケース別対策と環境づくり」と題して研修講座を実施いたしました。胆振管内から25名の先生方の参加をいただきました。

研修講座の様子や資料については、胆振教育研究所のホームページ上で紹介しておりますのでご覧ください。(http://www.iburi-education.jp/)

講義

発達面や対人不安からなる不登校への対応について具体的事例をもとにお話いただきました。



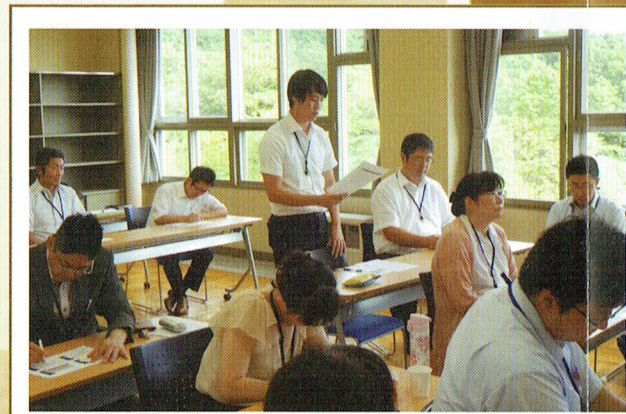
参加者の声

ワークとして実際に自分で体験することで、生徒としての感じ方、また教師としての関わり方の2つを学ばせていただきました。たくさんの目で見ると、自分の見えていない子どもの良さが見えてきます。他の先生方ともコミュニケーションをとって良い学校環境をつくっていきたいと思いました。

ワーク1

リソース探し・コンプリメント

不登校の事例からその子のいいところ・長所を思いつく限り出し、その子にどうほめたり、認めたりできるかをグループごとに検討しました。
リソース=資源、資質、能力
コンプリメント=ほめる、認める



参加者の声

各学校で抱えている不登校・登校しぶりについて、自分の立場で何ができるのか、チームとして何ができるかを改めて考えることができました。
子どもを多面的に見ること、肯定的にとらえることが大切だなと思いました。



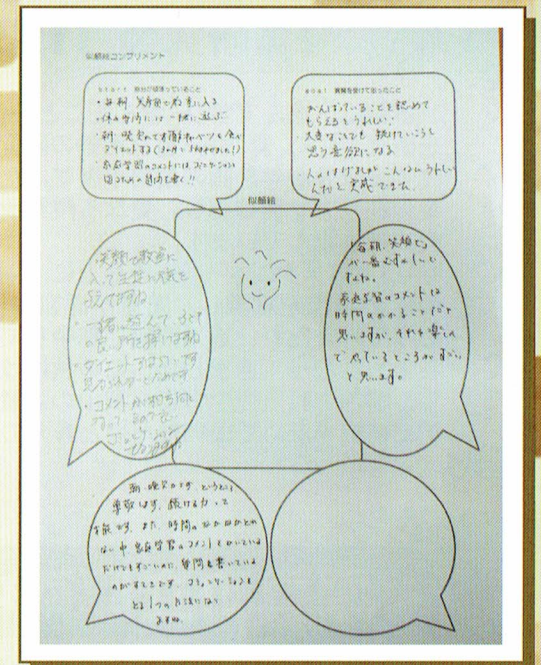
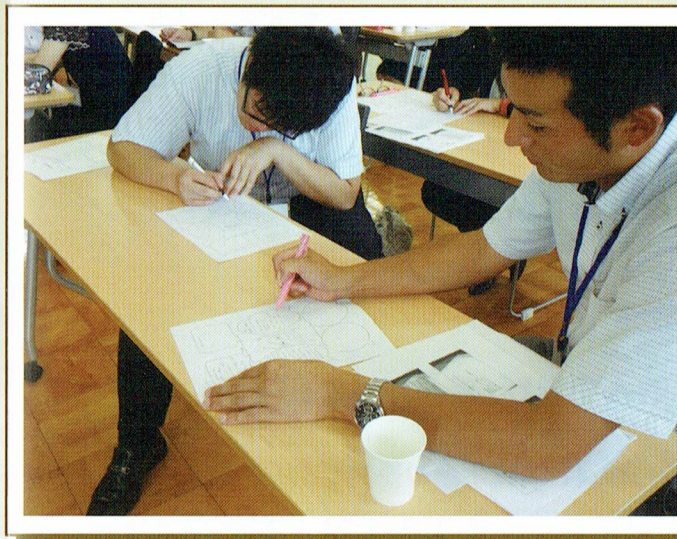
参加者の声

事例が具体的で分かりやすく、学校でも活用できるものでした。ワーク1・2も、子どもをどう見ていくかという視点で参考になりました。「ほめられること」は気持ちのいいこと。子ども達を気持ちよく学校に来させるために何ができるのかを考えていきたいと改めて思いました。「ほめられた」研修は初めてでした。ありがとうございました。

ワーク2

似顔絵コンプリメント

似顔絵と最近頑張っていることを記入し、グループ内でコンプリメント(ほめる・認める)を書き込むという活動を行いました。
ワークの後には、尾野氏に全参加者へのコンプリメント(研修の中でのほめ言葉)をいただきました。



参加者の声

事例をもとに児童生徒にどのように対応すればよいか、また、どういう関係機関と連携していけばよいか分かりやすかったです。
ほめる=認めることで、子どもの自己有用感につながることの大切さを再認識しました。